

部品と人をつなげる新聞

S

台風19号による猛烈な雨により洪水被害や土砂災害などが日本各地で広範囲に発生したことで、各地の防災機能やインフラ機能の脆弱さが改めて露呈した。企業も被害を防ぐ方法、またそれを最小限に留めるための対応が急務となる。被災時の社員やユーザーとの情報共有が求められる。ソフトウェアを活用した防災も注目されている。

SNSなどITを活用

「災害マップ」の提供を開始した。「災害マップ」は、ユーザー自身が現在の状況を投稿でき、現在提供している自治体や気象庁

早期に災害の状況を知

同サービスは、建物や監視画面上に構造物、設備機器類に敷設したOKIの光ファイバーセンサーによりリアルタイムに検知された異常な温度上昇などのデータを、日本ド라이ベキカ

さらに拡大す

# 創業100周年を迎える

## 苦勞乗り越え技術発展させて

### 神山鉄工所

（株）神山鉄工所（東大阪市、神山貴至社長）は、今年創立100周年を迎えた。初代から四代目に至るまで、幾多の困難を乗り越えて技術を発展させ製品開発に取り組んできた。そして、これまでの100年から次の100年へ、更なる飛躍を目指す。

曾祖父の神山時蔵氏が創業。同氏は尋常小学校を卒業後、大阪砲兵工廠に入職した。大正8年（1919年）、24歳の時に独立し、創業したのが同社の始まり。お金を借り入れて機械を買い、砲兵工廠で身に付けた技能と工夫で、それまで外国からの輸入に頼っていたタフルヘッター、ローリングマシン、製釘機など独自開発して販売する

とともに、自社内でリベットの、鋸釘などを生産した。その後、社業はますます拍車がかかり、社員数も増加し200名を突破。伸線機および線材の生産も開始し、線材と機械、加工工具の製造からねじの製造に至るまで一貫生産を行い順調に進んだ。また、機械の販売も継続して行われた。

ところが、悲劇が襲った。太平洋戦争だ。工場は福井県武生町へ疎開を余儀なくされ、社員たちも戦地へ赴いたり疎開したりと、ちりちりとなつた。大阪の工場は時蔵氏

の妻ゆきが守り抜いたが、終戦直前、福井の工場は空襲を受けた。終戦後、少人数で事業を再開。苦勞しながらも

1973年に二代目社長に神山時男氏が就任した。戦時中は学徒出陣を経験し苦勞を味わった。社業では、現在同社の主

より、次第に市場（建築関係）に評価されるようになった。

1991年に三代目社長に神山裕義氏（現会長）が就任した。バブル崩壊の最中での就任であったが会社の舵取りに努めた。さらにリーマンショックを経験するなど、二度の大不況に苦勞したがこれらを乗り越えた。

製品開発では、1998年にスチールハウス用ドリルねじの製造工場認定を取得した。2000年には木下地向けドリルねじ「メタルウッドポイント」を開発。また、設備の導入にも力を入れ、2007年に大塚商会の

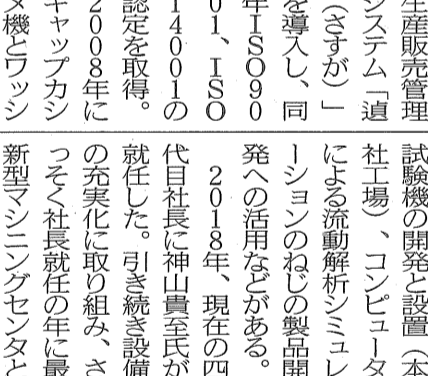
「受け継がれたドリルねじ、新たな領域へ」

さらに、2017年に経済産業省のサポイン事業（産官学共同研究）の採択を受け、ドリルねじの性能向上について、大阪産業技術研究所と大阪府立大学との共同研究に取り組んだ。その成果として、ドリルねじの性能

を増設して年末年始まで立休みの体制を確保し、顧客の信頼、従業員の和を大切にしながら技術開発、設備導入に取り組んでいきたい。」と目を輝かせる。



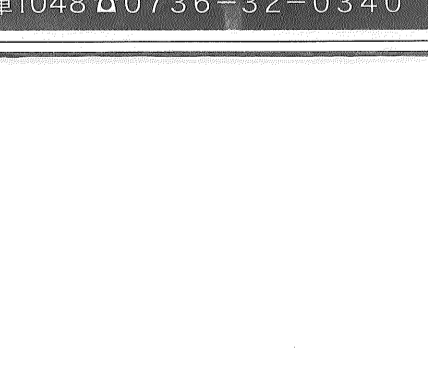
初期の自作の機械類



かつての伸線機



伸線機の一部



かつての伸線機



かつての伸線機

## ねじサポ会 ねじがどなるまで2019

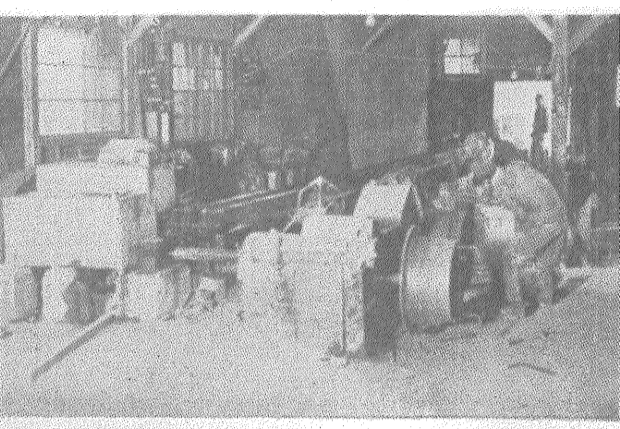
### 会員がリレー形式で講師に

関西ねじ協同組合のねじづくりサポ会（小嶋一毅会長）は9月26日、

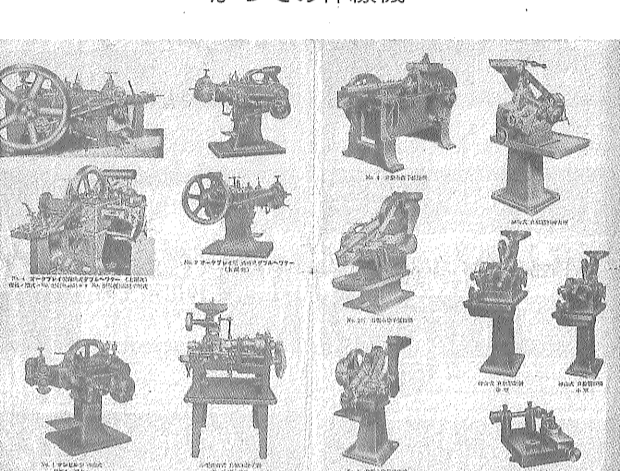
シエラトン都ホテル大阪（大阪市）で勉強会「ねじがどなるまで」を開催した。ねじサポ会所属の面々がリレー形式で講師

布して今後の社内勉強会にも活用してもらえようとするなどの理念に基づき、講義はスクリーンに投影されたスライドと、50ページ以上に及ぶレジュメによって行われた。

小嶋会長は開会に際し「多くの皆様に集まっていただき感謝したい。当



伸線機の一部



初期の自作の機械類

の妻ゆきが守り抜いたが、終戦直前、福井の工場は空襲を受けた。終戦後、少人数で事業を再開。苦勞しながらも

1973年に二代目社長に神山時男氏が就任した。戦時中は学徒出陣を経験し苦勞を味わった。社業では、現在同社の主

より、次第に市場（建築関係）に評価されるようになった。

1991年に三代目社長に神山裕義氏（現会長）が就任した。バブル崩壊の最中での就任であったが会社の舵取りに努めた。さらにリーマンショックを経験するなど、二度の大不況に苦勞したがこれらを乗り越えた。

製品開発では、1998年にスチールハウス用ドリルねじの製造工場認定を取得した。2000年には木下地向けドリルねじ「メタルウッドポイント」を開発。また、設備の導入にも力を入れ、2007年に大塚商会の

「受け継がれたドリルねじ、新たな領域へ」

さらに、2017年に経済産業省のサポイン事業（産官学共同研究）の採択を受け、ドリルねじの性能向上について、大阪産業技術研究所と大阪府立大学との共同研究に取り組んだ。その成果として、ドリルねじの性能

を増設して年末年始まで立休みの体制を確保し、顧客の信頼、従業員の和を大切にしながら技術開発、設備導入に取り組んでいきたい。」と目を輝かせる。